

事例報告

生物多様性を伝える活動（全国の調査研究と取材から）

北九州・^{ぎょぶ}魚部 副代表 **上野 由里代 氏**

こんにちは、^{ぎょぶ}魚部です。今までの皆さんとはちょっと違ったようなスライド内容になっていますが、生物多様性に対してこんな見方もあるのかなという感じで気軽に聞いてください。

私たちは全国各地で調査研究と取材を行っています。生物多様性を高めるためにはまず気づくことが大事だと思っているので、地元の方も気がつかない身近な生物多様性についてどう気づき、そしてそれがどう広がっているのかということについて事例を基に話していきたいと思います。

私はキュウカラちゃんという名前で、魚部で活動しています。キュウカラは正式にはキュウシュウカラヒメドロムシという、現在九州でしか見つかっていない小さな虫です。ゲンゴロウはご存知の方もいらっしゃると思いますが、ヒメドロムシもゲンゴロウと同じように幼虫・成虫ともに水中で生活している水生昆虫です。大きさは1mmから日本最大でも5mmと非常に微小なため、世間ではまだあまり知られていません。そこで私はこの1年、大好きなヒメドロムシの調査をして皆さんに魅力や存在を伝えるためにこんな格好をしているのです。

前置きはこれぐらいにして、そもそも魚部とは何かについて簡単にお話ししたいと思います。

魚部はもともと高校の部活動でした。それを高校生だけでなく誰でも入れる新しい活動にしようということで、3年前に北九州発全国の自然や人との関わりに興味のある人が集まる「北九州・魚部」という活動がスタートしました。3年前は何もなかった魚部基地が、今では水槽が80本ほどある拠点の基地となっています。

魚部は現在32都道府県に350名の魚部員がいます。私たちは生物多様性のことをやっていますが、人物多様性もすごく高いのです。生き物好きなアマチュアもいれば、さまざまな専門家がいる団体です。今日もちらほらと魚部員さんが見えます。詳しくは後ろにパンフレットを置いてあるので、よかったら後で見てください。

全国各地と言いましたが、全国の湿地が対象です。自分の住んでいるところだけではない地域を対象としています。自分の知っている地域だけでなく全国の知らない地域に行くのです。さらに私たちは良い水辺だけでなく、見た目からして少し寂しく残念な環境にも行きます。写真右の三面コンクリート張りの溝には、なぜか外来のドジョウがいました。「こんな環境になぜいるのだろう？」というストーリーも考えます。

このように誰も関心を持たないような場所も調査します。なぜなら私たちは自然や生き物が大好きで、いろんな場所の生き物と出会いたいからです。なぜ全国各地に行き、良い水辺だけを対象としないのかというと、場所が違えば生き物も違うし、何がいな

全国の湿地を対象としている

自分の住んでいる地域だけに限定しない！



良い水辺だけでなく、多様な環境を調査する！



生物が好きだ！！
色々な場所の生き物と出会いたい！！

出所：登壇者講演資料

自然・生きもの雑誌「ぎょぶる」



調査・取材

地元とのつながり

ぎょぶる制作や展示活動

出所：登壇者講演資料

くなって何が生き残っているのかを知らない人が多いからです。そういう発見のおもしろさを私たちも知りたいのであちこち出かけています。それが私たちの活動のベースにあります。

そうやって調査したことを展示活動や観察会に活かしたり、雑誌「ぎょぶる」という形にしてまとめたりしています。「ぎょぶる」は、私たちが全国各地で調査したこと、調査対象としたことを地域特集として紹介しています。今日はその話を中心に事例紹介をしたいと思います。

調査する中で「こんな生き物がいた」とわくわくドキドキしていると、地元の人に出会います。たとえば川をさらっていると「何を採っているの?」とよく話しかけられます。たまに手伝ってやろうという人もいます。話していると中にはすごくおもしろがって聞いてくれる人もいて、その人がさらに違う人を紹介してくれてまた別の人に出会って、どんどん地元の人とのつながりが生まれます。「そんな生き物がうちの地元にいるの?」と驚いてくれて広がりが見られるのです。この場所を特集して雑誌にしたいと言うと、そのつながりが生まれた人たちも一緒に雑誌づくりに関わります。雑誌に登場したり地域のことを書いてくれたりするのです。そういうことを通じて、この場所にはこんな生き物がいるんだという生物多様性への関心も深まっていくのですが、今日はその話を「ぎょぶる」5号の種子島特集を基に話していきたいと思います。

まず、私たちは種子島のことをはじめは何も知らないので出かけて調査します。これは砂浜でハンミョウという虫を探していたときです。水辺の生き物が好きな私たちは湿原があればとりあえず入って網を使って探します。するといろんな生き物の発見があります。私の住んでいる福岡県ではもうほとんど見られないような生き物がたくさんいることに本当に驚きます。「種子島すごい」と思っているところに、たまたま地元の人に出会いました。いつも「ギョブカー」に乗って活動しているのですが、調査後に車に乗ってうろうろしていたら「魚部って何だ」と地元の人に見つかったのです。そのときは気づかず通り過ぎたのですが、たまたま種子島の「赤米館」という施設に寄ったら、さっきの地元の方の奥さんがお勤めされていたのです。「私たちが、種子島を調査するとこんな水生昆虫がたくさんいたんです」と話すとおもしろがって聞いてくれます。そして仲良くなってご自分の話も聞かせてくれて、さらに生き物好きの関係からいろんな方を紹介してくれました。

たとえば地元のミュージアムに勤めている学芸員（考古学者）の石堂さんや生き物好きの岩澤さん親子を呼んでくれて生き物の話をしていたら、石堂さんが「そんなにうちの地元の自然に興味があるなら、日本で3カ所でしか残っていないカモの猟を見るか」と誘ってくださったのです。それはぜひ見たいということで見学させていただきました。

夕方薄暗くなるとカモが一気に飛び立つのを木の上で待ち伏せして、大きな十字架の網を使って獲るというすごい迫力のある猟なんです。私たちが訪れたことによって急遽カモ猟の観察会が行われることになったのです。地元の方も一緒に

いざ、種子島の湿原へ！！



出所：登壇者講演資料

種子島おもしろい！！！！



出所：登壇者講演資料

参加することができ、このような伝統的な文化を教えてもらうことができました。

次は岩澤さんご一家です。私たちが水生昆虫を日々調査していることに興味を持って、自分のところの田んぼにも虫がいるのでぜひ一緒に見てほしいという話になり、岩澤家の田んぼの生き物調査を行うことになりました。これも私たちだけではなく地元の方も一緒に参加しました。この田んぼの調査では、私たちも知らないようなゲンゴロウの生態が分かったり、種子島では初記録の水生昆虫が見つかったりしてとても楽しい調査になりました。地元の方もこんな身近にたくさん生き物がいたなんて知らなかったと驚き、そしてすごく興味を持ってくれました。

そうやって行った調査、取材、体験活動を通じて「ぎょぶる」5号が完成しました。カモ猟や田んぼ調査のこと等、種子島の自然・生き物だけでなく、歴史や文化についても特集したページとして取り上げました。

そうした調査、取材活動を通じて、私たちは自分たちの調査だけでは分らなかった自然と人との関わりについても理解できましたし、種子島に住む人たちも、全く気にもとめていなかった場所に気にもとめていなかったような生き物がいて、それがすごく貴重なんだということを感じたようです。

「ぎょぶる」は出ただけでは終わりません。完成すると、毎号特集した地域を再度訪れて寄贈もします。図書館に寄贈して大人の方にも読んでいただいたり、小学校に寄贈して子供たちに読んでもらったりもします。寄贈の段取りは取材で出会った地元の方がしてくださり、北九州市在住の魚部員が出かけて寄贈します。このように「図書館だより」にも載せてくださいました。寄贈は制作に関わった人たちだけでなくさらに多くの人たちにも読んでもらいたいから行のですが、実際にその後の反応を聞くと、自分の地元の今まで気にもとめていなかった自然に対して興味がわき、自分たちの島は生物多様性が豊かなのだと気づくきっかけになっています。

さらにももしろいエピソードがあります。私たちは地元に住んでいないのに地元の方を案内することがありました。島のお子さんが「ぎょぶる」を読んでイカリモンハンミョウという貴重な虫が島にいることを知り、ぜひ夏休みの宿題のテーマにして学校みんなに紹介したいということだったので、私たちが寄贈に行ったときに地元の人を案内する観察会を急遽開いたことがありました。このように、実際に調査に訪れて本を出して、皆さんに寄贈して読んでもらったことによってこんなつながりも生まれているのです。



出所：登壇者講演資料



出所：登壇者講演資料



出所：登壇者講演資料

完成すると寄贈もおこなう



- ◆ 寄贈を行うことで地域住民の目にふれやすくなる。
- ◆ 全国での販売を通じて、関係や興味のある人びとに伝わる。

出所：登壇者講演資料

地域住民でない魚部が案内！

島の方が子どもを連れて魚部メンバーと一緒に野外活動をしたいとのこと。砂浜に生息する、島以外ではかなり貴重なイカリモンハンミョウを採集して標本にし、夏休みの宿題にするためだという。



出所：登壇者講演資料

私たちは全国各地での活動を通じて、その土地の今まで気づいていなかった身近な自然に対する生物多様性の理解を深めています。それは、生物多様性も含めて自然のおもしろさ、楽しさ、不思議さを発信していきたいと考えているからです。言い換えると、なかなか気づきにくい「自然を観る眼」を社会に普及していきたいと考えているのです。都市部とか農山漁村とか住んでいる場所に関係なく、現代の日本で自然と人との関わり方はどうあるべきなのかということを魚部の活動の根本として追求しているからです。

私たちは今後も日々の調査、「ぎょぶる」や展示活動等を基に、気がつかなかった身近な生物多様性について発信する活動を続けていきたいと思います。全国各地で活動していくので、興味のある方はぜひご参加ください。

ご清聴ありがとうございました。

『ぎょぶる』を通して

- ・ 自然の楽しさ・おもしろさ・不思議さを発信
- ・ “自然を観る眼”を社会に普及していく

都市部・農山漁村と住む場所に関係のない

現代的な自然と人のかかわりのあり方を追求する



出所：登壇者講演資料